

校長室だより

2月号

杉並区立向陽中学校
平成29年2月28日発行
校長 菅野 武彦

「人間賛歌が響き渡る学校づくり」を目指して
【今年度のキーワード】

「建設的な和～みんなの向陽中学校～」

学校評価アンケート（4段階評価）の結果に基づく分析・考察

※ 肯定率（%）とは「全体に占める肯定的な人数の割合」のことです

◇ 1 学習指導について 【肯定率】 生徒 78.8% 保護者 78.8%

→[29年度の方向性] 生徒一人一人が①能動的に学ぶ ②対話的な学びを通して自己の考えを深める ③『自立した学習者』になる ④そのために教員が授業を変える

教育目標の『よく考える人』を育成するために、今年度も「生徒の主体的な学習の定着の土台づくり」と「家庭学習の定着」に取り組みました。特に5教科のデジタル教科書の導入によるICTを活用した授業の実践、全教科でグループ学習など生徒同士の「学び合い活動」を取り入れた授業の実践により、「生徒の主体的な学習姿勢」の育成を目指しました。教員の自己評価では、「5教科のデジタル教科書の活用」の肯定率が**68.4%**、「全教科での生徒の学び合い活動」が**84.2%**でした。生徒の自己評価では、「私は自分で課題を見つけて、進んで勉強するようになった」の肯定率が**61.0%**でした。保護者の自己評価では、「我が子は自分に向き合い、進んで勉強するようになった」の肯定率が**53.8%**でした。生徒が学校の授業で見せる学習姿勢と家庭で見せる学習姿勢には自ずと違いがあり、数値のみから一概に判断することはできませんが、生徒・教員・保護者の三者の受け止めができるだけ同一の方向になるようにしたいと思います。

つぎに、家庭学習の定着では、5教科の『家庭学習の手引き』を作成し年間を通して生徒の家庭学習を支援することにしました。12月時点でのアンケートでは、毎日1時間以上行っている生徒の割合が、第1学年が**73.1%**、第2学年が**66.7%**、第3学年が**73.1%**でした。5教科の教員の「『家庭学習の手引き』を活用した家庭学習の支援」の肯定率が**85.7%**でした。ただ、保護者の「我が子の家庭学習は定着している」の肯定率が**47.6%**でした。「主体的な学習姿勢」と同様な傾向が見られることから、次年度の取組の方向性を探ります。※上記の枠内参照

生徒は毎日の授業についてつぎのようにとらえています。「私は授業の内容はよく理解できる」の肯定率は**80.6%**、「先生は説明や黒板の書き方、ワークシートなど、わかりやすく指導を工夫している」の肯定率は**79.1%**でした。また、保護者の「学校は生徒にとってわかりやすい授業をしている」の肯定率**75.9%**から判断すると、教員の授業づくりは概ね良好ととらえることができますが、生徒が教員に頼りすぎず能動的に学ぶ視点や生徒同士の対話的な学びの視点、そして

生徒を「自立的な学習者」に育てる視点からの授業改善に取り組んでいきます。

学習指導と深くかかわる「評価・評定についての説明及び情報提供」については、肯定率（生徒 **73.3%**・保護者 **78.1%**）からは、前年度よりは改善が見られるものの、きめ細かな情報提供に努め、より一層説明責任を果たしたいと思います。また「道徳の授業では自分の生き方や命の大切さなどを学んでいる」の肯定率（生徒 **82.0%**・保護者 **82.4%**）からは、人として生きることに対する前向きな心情や共に生きる心の育成に成果がうかがえます。今年度の指導の重点の「いじめのない学校をつくる」にも関わる項目であることを重視して取り組みました。

次年度の方向性を4点示しましたが、これは「平成 29・30 年度杉並区教育課題研究指定校」としての『主体的・対話的で深い学びを通じた学力の向上』の研究とも関わりがあります。この1年間、学年差はあるものの概ね生徒の授業への取り組みは良好だったと思います。これを土台として、次期学習指導要領が目指す『主体的・対話的で深い学び』のある授業づくりを推進していきたいと考えています。そして、この授業づくりについては、家庭学習の定着と併せ保護者との共通理解が不可欠と考えます。次年度の保護者会や教育課程説明会等で説明させていただき、ご家庭においても同一歩調でご協力いただくことに努めたいと思います。

◇ 2 生活指導・進路指導について 【肯定率】 生徒 81.3% 保護者 84.9%

→[29 年度の方向性] 生徒一人一人が①能動的に活動する ②人との関わりを通してよりよい関係をつくる ③自立した生活をする ④そのために教員が支援する

教育目標の『思いやりのある人』を育成するために、今年度は「**自他を大切に**する心」を育てることで「**思いやりと感謝**」を実践できる生徒の育成に取り組みました。生徒の自己評価では、「私は自分から声に出してあいさつをしている」の肯定率が **78.5%**、「私は多くの人と互いに助け合ったり、協力し合ったりして学校生活を送っている」の肯定率が **83.4%**、そして「私は4月当初に比べ、他人を思いやったり、他人に感謝するようになった」の肯定率が **82.3%** でした。人間関係づくりに欠かせない『思いやりと感謝の心』が一定程度生徒に定着していることがうかがえます。また、「いじめのない学校づくり」にも重要な役割を果たしているものとらえています。保護者の自己評価では、「学校はあいさつの励行やきまりを身に付けさせ、学校生活が向上するように指導している」の肯定率が **91.1%**、「学校はいじめや不登校を解決するために、相談のったり、話し合ったりしている」の肯定率が **74.0%**、「学校は学校生活が充実し、楽しめるように指導している」の肯定率が **86.8%** でした。概ね肯定的な評価になっています。また、「私は4月当初に比べ、自分に向き合ったり、自主的に行動したりして、たくましくなっている」の生徒の肯定率 **79.0%**からは、全校生徒の8割近くになっていることが分かります。この『思いやりのある人』の育成においても、生徒一人一人の“自立”を求めるなかで育てたいと思います。ただ、個人差等があることにも留意していきたいと思います。

教員の自己評価では、「学級活動において、一人一人の生徒が係や委員、班活動などの自己の役割を果たすとともに、お互いに協力して活動できるように指導した」の肯定率が **89.5%** でした。次年度以降は、これまでの成果を土台として、学級活動における“生徒の自立的な活動”を推進するなかで意図的に「思いやりと感謝」の心を育てたいと思います。またこれまで同様、学校と

家庭が「思いやりと感謝」の心の育成を共有し、取り組んでいきたいと思います。

つぎに、進路指導について見てみると、「学校は将来の進路や生き方、働くことの意義について考える指導をしている」の肯定率は、生徒が **70.4%**、保護者が **83.3%** でした。この進路指導では学年差が明らかになりました。生徒では **1年 55.0%・2年 77.7%・3年 75.5%**、保護者では **1年 71.7%・2年 91.3%・3年 83.1%** となり、次年度以降の取組に生かすとともにキャリア教育に力を入れたいと思います。今後、第1学年での自己理解や公共施設訪問、第2学年での職場体験学習や上級学校説明会、そして第3学年での自己理解及び将来の夢を踏まえた進路決定という3年間のサイクルを定着させていきます。なお、第3学年対象の「進路に関する十分な情報提供」（生徒 **83.8%**・保護者 **74.7%**）及び「進路についての先生との十分な相談機会」（生徒 **81.0%**・保護者 **74.7%**）では、生徒と保護者での差を意識しながら、よりよい対応を心がけたいと思います。

◇ 3 学校運営・教職員について 【肯定率】 保護者 87.4%

→[29年度の方向性] ①明確に、分かりやすく、見えるように ②校長がリーダーシップを発揮する ③生徒一人一人を大切にす ④教職員一人一人も大切にする

ここでは「学校の取組み」と「教職員」についてどうであったかを保護者のアンケート結果から見ていきたいと思います。まずは「学校の教育方針や指導の重点が明確である」の肯定率は **82.2%** でしたが、学年別では **1年 75.0%・2年 88.2%・3年 82.7%** となり、第1学年での肯定率が低かったことから学校としての説明責任が不十分であったと判断できます。学校経営の方針や指導の重点が十分に浸透していなかったこと、指導の重点に沿って指導されているかどうかが見えなかったこと、そして学校運営上の校長のリーダーシップが十分でなかったこと等が考えられます。「より明確に、より分かりやすく、より見えるように」していきたいと思います。

つぎに「教職員が協力して生徒指導をしっかり行っている」の肯定率が **90.2%**、「学校は体験学習・発表会・外部講師の授業など様々な取り組みを行っている」の肯定率が **94.3%** でした。教員の取組や働きかけを大変肯定的に評価していただいています。また、教職員についても、「先生は生徒を大切にしてくれる」の肯定率が **86.1%**、「先生は教育活動に熱心に取り組んでいる」の肯定率が **88.3%**、そして「先生は我が子の教育について相談すると、熱心に対応してくれる」の肯定率が **82.3%** でした。保護者の皆様に教職員を肯定的に評価していただくことほど校長としてうれしいことはありません。次年度も教員と生徒の相互信頼の構築を第一に考え、生徒一人一人を大切にす指導を心がけたいと思います。ただ、教職員の勤務時間外労働等による加重的な労働は本校でも例外ではなく、校長として見過ごすことができません。教職員一人一人も大切する対応も考えたいと思います。

では、生徒は先生をどのように見ているかを見ていきたいと思います。「先生は厳しくも温かな気持ちで指導してくれる」の肯定率が **80.6%**、「先生は生徒一人一人に公平に接してくれる」の肯定率が **71.1%**、「先生は親身になって相談に乗ってくれる」の肯定率が **63.9%**、そして「先生はあなたの良いところや努力したことをほめてくれる」の肯定率が **75.7%** でした。全項目で昨年度より肯定率が高くなったことは成果ととらえることができますが、学年差が大きいこと、対

応が十分でなかったこと等の課題が見て取れます。生徒の発達段階や成長過程にも配慮し対応したいと思います。また、基本は生徒一人一人を大切にすることです。生徒が公平感を感じ、安心して相談できる環境をつくっていききたいと思います。また、生徒の頑張りや成長を認め励ますなど、生徒の自己肯定感を育む指導を全教職員で共有していききたいと思います。

◇ 4 学校行事・学校生活について 【肯定率】 生徒 85.5% 保護者 91.7%

→[29年度の方向性] ①学年・学校行事では“一体感”を ②生徒の主体性と自立を支援する ③学校は楽しい場所である ④向陽中学校が好きである

生徒の「運動会や向陽祭などの学校行事に楽しく積極的に取り組んでいる」の肯定率が **87.8%**、「学級は学年行事や学校行事などの取組みを通して、協調性や団結力が高まっている」の肯定率が **85.8%**、そして「向陽中学校は運動会や向陽祭などの学校行事に全校が一体となって取り組んでいる」の肯定率が **90.6%**でした。向陽中生の意気込みと団結力の強さ、そして一体感を見る思いです。「向陽中学校の生徒を見てください！」と言える所以がここに 있습니다。また、生徒は宿泊行事においても、学年集団としてのまとまりを発揮し、楽しく活動することができました。保護者の「我が子は学校行事に楽しく取り組んでいる」の肯定率が **90.8%**、「向陽中は運動会や向陽祭などの学校行事に全校一体となって取り組んでいる」の肯定率が **96.8%**でした。こうした生徒や保護者の高い肯定率は、生徒の主体的な活動や生徒同士の助け合い活動による成就感があることを示しています。生徒は学校行事や宿泊行事での取組ですでに「自立した学習者」になっています。“生徒の自立”こそが生徒の満足度を高めるキーワードなのです。

学校生活について見てみると、生徒の「毎日の学校生活が楽しい」の肯定率が **82.5%**、「向陽中学校が好きである」の肯定率が **83.0%**でした。昨年度よりそれぞれ3ポイント、5ポイント上がりました。うれしいことです。ただ、私としては“これで満足”とは思っていません。「学校は楽しい」場所であること、生徒が充実した学校生活を送り、かつ生徒が成長を実感できることが、「向陽中学校が好きである」ことにつながると考えます。保護者の「我が子は学校生活が楽しいと感じている」の肯定率が **88.6%**、「向陽中学校は笑顔と友情、そして活力あふれる学校だと思う」の肯定率が **93.1%**でした。うれしい限りです。

◇ 5 安全指導・地域との連携・情報提供・授業参観など

保護者の「学校は生徒の安全を守るために指導や訓練を十分に行っている」の肯定率は **90.5%**と高い評価ですが、様々な場面を想定した“万が一に備える”指導を継続していきます。「地域との連携」の肯定率も **91.8%**と大変良好ですが、開校70周年を迎える次年度には地域の人材をより活用したいと考えています。また「学校の広報活動・情報提供」の肯定率は **87.0%**でした。より知りたい情報の提供や保護者に対する説明責任に努めます。保護者会への参加や行事の参観の肯定率も **87.1%**と、大変ご協力いただいていることが分かります。ありがとうございます。保護者の皆様がより参加しやすく参観しやすい学校にしていきたいと思ひます。

今年度の新たな取組の『自育力』の育成では、生徒の肯定率が **56.3%**、保護者の肯定率が **74.9%**でした。2年目となる次年度は、生徒の自立とともに『自育力』を身に付けさせたいと思ひます。